

A Iマスクはいかがですか？

A Iとの付き合い方

4年 K・Lさん

ぼくは最近、感情のコントロールに困っている。周りにイライラして、気持ちをうまく伝えられず、心がいつばいになってしまっていることがある。だから、この本を初めて読んだときA Iマスクを手に入れた。ぼくと同じ四年生の子どもたちがちよつとうらやましかった。ぼくにもA Iマスクがあったら、気持ちを言葉できちんと言えられたり、上手に話したりすることができるのと思った。

この本の登場人物たちは、ぼくや学校の友だちとも似ているところがある。登場人物の中で、一番好きなのは夏南人だ。無理をしてがんばっているところが、苦手なことに挑戦しているときのぼくと重なって応援したくなった。そして、一番印象的だったのは創也が自分の過ちを認めて、友だちに謝りに行くこととする場面だ。すぐに行動に移しているところがカッコいいと思った。

ぼくもお父さんからの助言で、A Iとクイズやしりとりをして遊んだことがある。でも、コンピュータ相手のしりとりは味気なく、とてもつまらなかった。クイズもぼくが想定したような内容ではなく、どう答えればよいのか戸惑った。だから、ぼくは実はまだ、A Iとどう付き合っていけばいいのかよく分かっていない。でも確実に言えることは、A Iを使ってみることが大切だということ。人間同士の付き合いと同じで、まずは話をしてみたり友だちになったりしてみないと相手のことはよく分からない。ぼくとA Iももっと時間が必要なのだと思う。どんな友だちになるのだろうと想像するとてもわくわくする。

人間の能力は本当にすごいと思う。物をつかむ感覚、相手との適切な距離や感情を読み取ること、いろんな場面ですぐに理解し、すぐに動くことができる。コンピュータはそんな人間を目指しているのだと思う。だから、人間が歩み寄り、一緒に生きていく必要がある。これからどんな社会になっていくか分からない。A Iはもっと賢くなっていくはずだ。そう思うと、少し怖い。そのためにもしっかり考え、行動できる人間になりたいと心から思った。